

第25期 岡山県産業教育審議会 第4回会議（概要）
平成22年11月25日（木）13時30分～16時 県庁3階大会議室

1 開会

○挨拶（会 長）

昨年12月から審議を重ねてまいり、本日が最後の会となった。
審議主題について素晴らしい建議ができるよう、本日は審議いただきたい。

2 報告・審議

(1) 報告（委 員）

○第4回専門委員会について

第3回の審議会を受け、中間まとめを基に、文言等を一つ一つ確認しながら、建議の素案づくりを行った。

(2) 審議

建議（案）について

○「Ⅰ はじめに」

- ・事務局説明
- ・特に意見なし

○「Ⅱ 専門高校等を取り巻く現状」

事務局説明

(会 長) p 3には、巻末の資料の参照ページを示している。この表記でよいか。

(委 員) この書き方は違和感がある。報告書の形式にもよるが、読む側からすれば、報告書の中にグラフ等を挿入してあると読みやすい。できれば、情報量を絞ったものを文中に掲載し、そのバックデータは後ろにあるとよい。

(事務局) 検討させていただく。

(委 員) p 4には実践事例がいくつか挙がっているが、高校では、このような事例をどんどん取り組んでいく余裕が教育課程上あるのか？

(委 員) 既存の学校の施設でできる場合もあるが、中には産振設備が必要なものもある。ほとんどすべての専門高校では、授業で学んだことを生かして、地域へ還元する取組を進めている。生徒への負担もあるが、やった分だけの成果があがっている。

(委 員) 県としての予算は確保しているのか。

(事務局) 飛び出せ専門高校生の事業は、今年度200万円（5校×40万円）を予算化している。

(委 員) もっとお金が必要なのではないか。

(委 員) 予算があればあるほどよいが、なんとかやっている。

○「Ⅲ 専門高校等の目指すもの」

事務局説明

- (委員) p5の専門高校等の意義の段落の並びを、3段落目と4段落目の順序を入れ替えた方がよいのではないか。
- (事務局) そうさせていただきます。
- (委員) 実際に国際的な視野を入れるとすれば、高校の教育現場で対応できるのか？
- (事務局) 高校の中だけでは難しいこともある。高校の中だけではなく、視野を広げて取り組んでいくことも必要だ。
- (委員) 実際にどんなことに取り組むのか、具体的なものが見えて来ない。
- (委員) 英語の卒業証明書を書くことも多く、海外勤務されている方が多くなっていることから、グローバルの視点が大切だということで挙げている。
- (委員) 海外勤務の方の話聞く機会を設けているのか。
- (委員) 社会人講師で海外勤務の話をしてもらう機会もある。
- (委員) 学校現場の中で、無理なくしているということで確認した。
- (委員) 「将来のスペシャリスト」ということであれば、同時に語学力が必要なのではないか。日本の企業は海外へ出て行こうとしており、近い将来を考えれば、英語や中国語など何でもよいが、語学力が大切だろう。中国の職業高校では留学希望者のために、日本で学ぶことができるよう、日本語科を設けている。
- (会長) グローバル化に対応してますますコミュニケーション力が必要。高校卒業者でもどんどん行かしている。
- (委員) 世の中の流れとして、英語ができないと採用しないという企業もある。
- (事務局) 学校教育全般の考え方として、小学校でも外国語活動が入ってくる。中学校でも英語の単位数が増える。

○「IV 新たな時代に対応したスペシャリスト育成のために」

事務局説明

- (委員) 身に付けさせたい力のところは、内容は良いが、高校生にすれば専門的すぎて非常にハードルが高いように思う。誰に対してこのレベルを求めるのかがわかりにくい。
- (委員) キャリアプランニング能力の中身そのものを高校生に即、求めるのは難しいと思うが、中央教育審議会の中間報告にも「キャリアプランニング能力」という新しい言葉が出てくる。今後、こうした言葉を意識して専門教育をする必要があるということから載せている。
- (委員) 建議の内容をイメージ図のようなものに示すことができれば、見える化したモデルとなってわかりやすくできないか。
- (委員) 建議をいただいた後、教員や生徒にもわかりやすく示すことができるよう、図式化して、周知徹底できればと考える。
- (委員) 合同就職面接会のような機会を利用することも、一步踏み出して取り組むことができ、キャリア教育の一つになっている。
- (委員) 身に付けさせたい力が多くあがっていたが、中学の立場でお話すると、中学生はチャレンジワークを通して、社会と向きあったり、本物に触れたりすることができている。体験や社会人講師等を活用することは本当によいことだと考えている。

- (委員) ハローワークでは、ジョブサポーターと学校との連携を深めるようにしている。p 9の②2段落目「家庭・地域・事業所」に「ハローワーク」も入れていただきたい。
- (委員) 勤労観・職業観の育成には家庭、家族の問題が非常に大きくかかわっていると感じている。
- (委員) 保護者は子どもの就職に対して、どう対応したらよいか困っているところもある。家庭への働きかけ、連携は大切だ。
- (委員) 就職の中で、保護者の理解、家庭との連携、家庭教育が大切だというような項目の追加を検討したい。

○「V 具体的な充実方策」

事務局説明

- (委員) 具体的に書かれているが、本当に実現できるのか？小中学校、保護者への働きかけは大切だろう。
- (委員) 学校ではインターンシップを積極的に体験させたいと考えている。次に、産業教育の周知については、全国産業教育フェアを H24 年に岡山県で開催することになった。今年度の茨城大会へ参加して、生徒が非常に達成感、充実感を持って取り組んでいる様子を見た。専門高校の学習成果を披露する場として大変意義があるのではないかと考える。
- (事務局) 生徒が中心となって活躍する場があればいいと思っている。⑥の産業教育懇談会については、毎年、産業教育振興会で開催していただいているが、これを、できれば県内3会場くらいで分散して開催していただければと考えている。中学校の職場体験は、県教委としては、3日を5日へと日数を増やして一層効果を上げたいと考えているが、産業界の協力がなければ実現できない。
- (委員) 建議になると、学校現場とすれば、非常に重いものになるのではないかと現場の声を聞きながら実施していかなければ、現場には負担になる。「デュアルシステム」などの新しい言葉も上がっている。できることからやっつけようということだろうが、今後の見通しはどうか？
- (委員) 教育振興基本計画にも数値目標で、チャレンジワークの日数の増加、インターンシップの実施率の向上を挙げている。デュアルシステムについては、全ての高校での実施ということではなく、そういう取組ができる枠組みを学校が設けることも必要だろう。建議にあることを全ての学校で実施しなければならないというわけではなく、できることから取り組んでもらいたいということである。
- (委員) 学校では「学力」を重視して授業が一番になっている。新たにこうした取組が入るとなると、年間指導計画においても、相当、時間が取られて、無理が生じるのではないかと。教育委員会としても、こうした取組が実施できるような予算や具体的な提案、環境づくりをお願いしたい。
- (委員) 義務教育の学校では、教育課程上大変厳しい状況であるが、高校では、学校長の裁量で弾力的な、特色ある教育課程の編成が可能であるので、県教委としては、各学校で取り組みやすいと考えている。教員の研修についても、高校で

は、授業を複数教員で担当していたりすることなどがあり、研修へ比較的出やすい。「産学官連携教員研修」については、現在、取り組んでいるものをもう少し広げるという意識で、建議案に書いている。予算的には県立学校へは、校長裁量で活用できる学校経営予算を配分している。その中で、社会人講師等の活用ができるようになっている。

(委員) 高校では、インターンシップの多くは長期休業中に実施している。教員の研修についても、定期考査中での実施など、できるだけ負担のないように実施している。

(委員) この建議はどのくらいの期間の計画か？

(事務局) この産業教育審議会はほぼ4年に一度のスパンで実施しており、中期的な計画と考えている。

(委員) 現在、産業界も厳しい状況から、高校生が自分の将来がどうなるのかの見通しが持てないことが問題だ。自分の目標となる先輩がいると、あの人をめざしてがんばりたいなど、ビジョンを描きやすくなるのではないか。先輩や目標となる人からの話を聞く機会や、働いている現場を見る機会を設けるなどを盛り込んでいただきたい。希望を持って学習に励んで、社会で活躍する人材になってほしい、というメッセージがこの建議から伝わればよいと考える。

(事務局) 「おわりに」へ盛り込んでいきたいと考える。

○「VI おわりに」について

事務局説明

特に意見なし

○「参考資料」について

事務局説明

特に意見なし

○全体的に

(委員) 高校3年以内の離職率が40%近くあるが、この建議の主題が「スペシャリストの育成」とある。そもそも3年以内で離職したのでは、スペシャリストにはなりにくい。夢や目標を持つということと同時に、目標が少々形がかわっても、粘り強く、あきらめないでがんばってほしいということを加えていただきたい。

(事務局) 御意見いただいたことも踏まえて検討していきたい。

(委員) いつの日付で建議を出されるのか？

(事務局) 本日いただいた御意見を反映させて事務局で修正し、会長、副会長に確認いただき、日程調整を行い、1月上旬くらいには、会長から県教委へ御提出いただくことになるだろう。

(委員) 時期的に、この建議の内容は、来年度の予算編成には直接反映できにくい。実際には平成24年度からの実施となるのか？

(事務局) これまいただいた御意見等の中で、来年度生かしていけるものについては、生かしていきたい。

(委員) せっかくなので、来年から実施できるものは、実施していただきたい。

(事務局) 修正した建議案については委員の皆様へも送付するので、今後とも様々な面で御協力いただきたい。

4 閉会

○挨拶（副会長）

- ・熱心に御審議いただき、感謝している。
- ・建議されたものが、今後、現場におろしていく際に、いかにわかりやすく理解してもらい、具体的に実施してもらうかが大切だろう。図式化するなどの工夫が必要だ。
- ・この建議が、できるものから早く取り組んで、産業教育の場で生かされ、岡山県が発展することを願っている。

○挨拶（教育委員会）

- ・熱心に、慎重に審議を重ねてきたこと、心から感謝申し上げる。
- ・本建議を、本県産業教育の一層の推進を図る指針にさせていただきたい。そのための予算については、できるだけ確保するように努めてまいりたい。
- ・本建議の趣旨を生かして、来年度から実施できるものについては、取組を進めていきたい。